



＜シーズ名＞ 食の安全・安心科学センター紹介 —食料安全保障と食の安全安心—

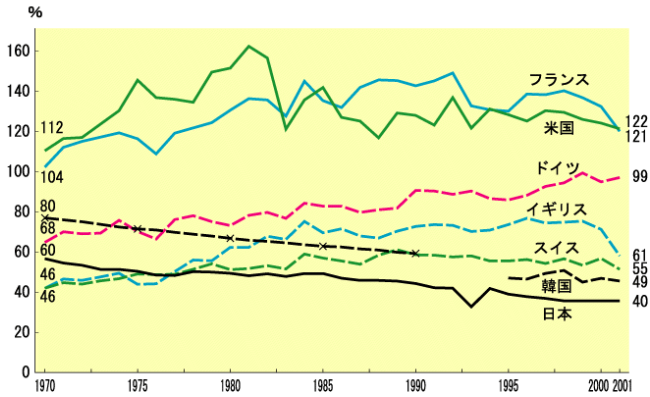
＜所属＞ 農学部 食の安全・安心科学センター 内田 一徳
・加古 敏之

＜連絡先＞ tel:078-803-5900 fax:078-803-5900 E-mail:uchidak@kobe-u.ac.jp

特徴

- ✓ 食料は、人間の生命維持に不可欠であるだけでなく、健康で充実した生活の基礎として重要
- ✓ 凶作や輸入の途絶等により食料の需給が逼迫するような場合においても最低限度必要とする食料の供給が確保される必要がある
- ✓ 国内農業生産の維持・拡大、備蓄の実施、安定的な輸入の確保等により食料の安定供給を確保

図 I-8 諸外国の食料自給率の推移



資料：農林水産省「食料需給表」、FAO「Food Balance Sheets」、韓国農村経済研究院「Korean Food Balance Sheet 2001」
 注：フランス、米国、ドイツ、イギリス、スイスについてはFAO「Food Balance Sheets」等を基に農林水産省で試算（1970～2001年）。
 また、韓国については、韓国農村経済研究院「Korean Food Balance Sheet 2001」による（1970、1980、1990及び1995～2001年）。なお、1990年以前と1995年以降では算出方法が異なるため、データは連続しない。

図 I-25 我が国の主要農産物の国別輸入割合（平成15年）



資料：財務省「貿易統計」

日本に起こりうる食料危機とその対策

○ 平和時の危機

異常気象
 原発事故による食料汚染
 港湾ストライキ等による輸送障害



食料需給のバランスが崩れ、食料価格が急上昇

※緩衝在庫を保有して国内価格の安定化を図る

○ 政治的・経済的危機

食料を国際戦略の武器として用いることにより発生

※日本に対して食料の禁輸措置がとられないような国際政治環境を作る

○ 軍事的危機

世界的な規模の戦争が勃発して海上輸送が全面的に途絶するなど

※食糧備蓄と配給制のための行政および法制面の準備
 ※国内生産基盤の維持